

The Pearls of Modern Indian Painting :
Nandalal Bose and Upendra Maharathi

インド 近代絵画の精華

— ナンダラル・ボースとウペンドラ・マハラティ

インド独立75周年
日印国交樹立70周年



2023 **1.14** (土) - **3.21** (火)

神戸市立博物館
KOBECITY MUSEUM

〒650-0034 神戸市中央区京町24番地

Tel.078-391-0035

<https://www.kobecitymuseum.jp/>

休館日 | 月曜日

開館時間 | 9時30分～17時30分 ※入館は閉館の30分前まで

主催 | 神戸市立博物館、在大阪・神戸インド総領事館、神戸新聞社

特別協賛 | ニューデリー国立近代美術館

観覧料 | 一般300(240)円 大学生150(120)円 高校生以下無料

※()内は30名以上の団体料金

※本展観覧には、上記コレクション展の観覧料が必要です。



भारत सरकार
Ministry of Culture
Government of India



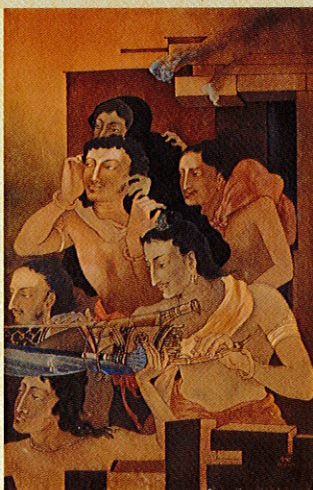
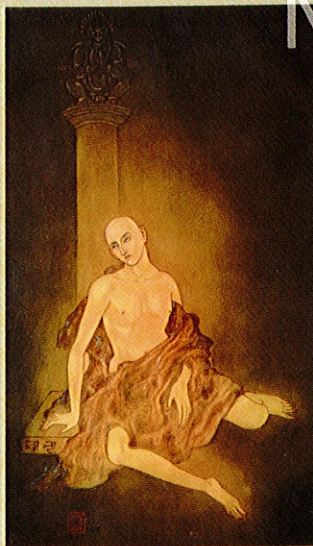
भारत कंसुल
Consulate General of India
Osaka-Kobe



日本とインドの国交樹立から70年の節目を記念して、ニューデリー国立近代美術館のコレクションによる、インド近代絵画の展覧会を開催いたします。このたび紹介するのは、インドの近代美術を代表する画家、ナンダラル・ボース(1883-1966)とウペンドラ・マハラティ(1908-1981)の作品です。

ボースはアバニンドラナート・タゴール(1871-1951)をはじめとするベンガル派の画家から大きな影響を受けたことで知られています。ベンガル派は、20世紀初頭、岡倉天心や横山大観、菱田春草といった日本近代美術の重要人物たちとも交流し、西洋画ではなく伝統的な絵画技法を重要視しました。一方マハラティは、ボースの次世代として活躍し、インド近代絵画を牽引した重要な画家のひとりです。1950年代に2年間日本に滞在しており、留学を契機として仏教的な主題を多く手掛けるようになりました。

本展では、ふたりの画業の一端をニューデリー国立近代美術館・パトナー美術館の所蔵作品25点から紹介します。日本画壇の作家たちとの運命的な出会いから生まれたインド近代絵画の精華をご覧ください。



ウペンドラ・マハラティ

インドと日本、

運命の絵に出会う



Upendra Maharathi

2	1
3	4
6	5

1. ナンダラル・ボース《たそがれ》1941年/テンペラ・紙/ニューデリー国立近代美術館
2. ナンダラル・ボース《ガルダ神柱よりかかるチャイタニヤ師》1910-15年頃/1947年/水彩・テンペラ・紙/ニューデリー国立近代美術館
3. ナンダラル・ボース《火室(塗喰屋敷炎上)》1910-11年頃/1943年/ウォッシュ・テンペラ・紙/ニューデリー国立近代美術館
4. ウペンドラ・マハラティ《サティの遺体を抱いて世界を蹂躞するシヴァ》制作年不詳/テンペラ・紙/ニューデリー国立近代美術館
5. ウペンドラ・マハラティ《アルダナーリッシュヴァラ(シヴァとパールヴァティー)》1938年頃/ウォッシュ・紙/ニューデリー国立近代美術館
6. ウペンドラ・マハラティ《水瓶を抱える村娘》1965年/水彩・紙/ニューデリー国立近代美術館



交通案内

●JR「三ノ宮」駅、阪急・阪神「神戸三宮」駅、神戸市営地下鉄(西神・山手線)、ポートライナー「三宮」駅から南西へ徒歩約10分 ●JR・阪神「元町」駅から南東へ徒歩約10分 ●神戸市営地下鉄(海岸線)「旧居留地・大丸前」から南東へ徒歩約8分 ●新幹線「神戸駅」から神戸市営地下鉄(西神・山手線)に乗り換え、「三宮」駅下車 ●神戸空港からポートライナーで「三宮」駅下車 ※博物館には駐車場がありません。お近くの有料駐車場をご利用ください。

新型コロナウイルス感染拡大防止にご協力をお願いいたします。
 [次に該当する方は、入場をご遠慮ください。]
 ・発熱のある方・咳、咽頭痛などの症状のある方
 [館内では、以下にご協力ください]
 ・検温・マスクの着用・手指の消毒
 ・他のお客様との距離を保ち、会話は必要最低限に